

京都で、会いましょう。

ICC

国立京都国際会館

Kyoto

— 2017 Spring —

巻頭インタビュー

華道家元池坊 次期家元

池坊 専好 氏



Kyoto International Conference Center



1965年京都市生まれ。京都工業芸術大学大学院工芸科学研究科博士後期課程修了。アリスソフト共和国名誉理事。1989年11月に帰国して、法名「専好」を授与され次期46世家元継承者となる。2004年京都市芸術新人賞受賞。2007年財団法人日本いけばな芸術協会副会長。2015年、四代目池坊専好を襲名。

池坊専好氏

華道家元池坊次期家元

表現は変わっても 時代に育まれた哲学は不変

木下博夫館長(以下、木下) 池坊専慶さんが花を挿したという記録が、今からちょうど555年前のことだそうです。時代背景や生活様式の変化で、いけばなはどのように変わってきたのでしょうか。

池坊専好氏(以下、池坊) 長い歴史の中でいけばなの表現は変わりましたが、その時代背景に育まれた哲学は不変です。それは、ありとあらゆる花の姿に命の輝きを見出すという哲学です。「花は足で生けよ」という言葉があるのですが、昔は山や野に行っただんな状態で植物が生えているかをよく見極め、その植物を採って生けていました。今は世界中から花が輸入され、バイオテクノロジーの進展で今までにない形や想像

きないような色の花が生まれ、大きく咲くものなど性質も変わっています。また以前は床の間にお軸とともに花を飾ることが当たり前だったのにマンションなど床の間のない空間が増えました。日々変わりゆく生活環境、ライフスタイル、花材などに新しい花形の提案等として対応しています。どういふ風にすればその時代、時代の人々の心に響くかを模索しながら今に至っています。

木下 いけばなの後世への継承のため、展覧会やいけばな体験会など全国で様々な取り組みを進めておられます。また、最近では京都大学との共催イベントなども開催されていますね。

池坊 いろんなものがデジタル化で無機質になるほど、自然とふれたいという欲求は高まってくると思います。京大とのコラボレーションも外来種という切り口から生物多様性を捉えるという取り組みです。「いけばな人」としてできることを考えています。現代



第53回日本リハビリテーション医学会学術集会▶ 国立京都国際会館ラウンジにて



人の好みは多様化していますが、ぴったり合う入り口があれば、それをきっかけとしていけばなに興味を持ってもらうことができます。若い方からお花を習って四季を実感できるようになったとか、日本の美しい言葉や花の名前が分かるようになり楽しいとかいう言葉を聞くことがあります。また東日本大震災以降、大学でいけばなの授業を取る学生が男性も含めて増えています。自然と共存してきた文化を知りたいという彼らなりの感性でいけばなと向き合っているのだと思います。

お互いの文化を尊重して 歩み寄ることで生まれる調和

木下 次期家元は海外への情報発信も積極的です。国連やユネスコ本部などにもご自身が出向かれて、いけばなの紹介に努めておられますが、反響はいかがですか。

池坊 文化は自分のアイデンティティーですから、他国の文化にも敬意を払って下さいます。いけばなは西洋のアレンジメントとは全く美感が違って、左右非対称で空間を非常に大事にし、「レス・イズ・モア」でぐっと凝縮した思いを託し、美しい花だけでなく枯れた枝にも命を見出して命全体を慈しむ価値観です。海外の方はそういうことを尊重して、興味を持ってくださいます。自分の文化を大切に、相手の文化にも

敬意を払って、お互いが歩み寄ることが調和に結びつく実感しています。いけばなそのものが色や形など違った性質を持ったものを取り合わせて、一つの世界をつくり上げるという世界観を表しています。私はいけばなを通して、国籍や民族、宗教などバックグラウンドは違っても人はつながり合えるという確信と喜びを得ています。

木下 最近の話題として、初代専好が主人公の映画「花戦さ」が、狂言師・野村萬斎さん主演で6月に公開予定です。次期家元も映画製作において全面的に協力されたそうですね。



池坊 映画では、武器でなく花の力で織田信長や豊臣秀吉と対峙した専好という人物を描いています。力で相手を押しやつけて屈服させるのではなく、文化の力で理解を深めていこうとする姿勢や、歩み寄っていこうという考え方は当時と今とは社会状況、時代は違いますが、共通する部分があると思います。その当時の花をできるだけ忠実に再現したいということで、200作品ぐらいいけ

ました。英語字幕をつけて海外にも発信し、できるだけたくさんの方に見ていただければと願っています。

「伝統と革新」を体現 魅力増す新ホールに期待

木下 次期家元には国立京都国際会館の評議員として運営にも積極的に関わっていただいています。世界に誇る文化・観光立国の実現、日本のMICE推進のために京都の各界が待望していた新ホールが建設されていますが、今後の国際会館に期待することをお聞かせください。

池坊 国立京都国際会館は京都という立地もよろしいですし、その中でも自然にあふれたところであって、建築としてもとても見ごたえがあります。それでいて新しい会議のあり方に対応できるようにハード・ソフト両面において日々進化しています。まさに伝統を大切にしながら革新する京都のあり方が体現されていると思っています。その魅力がさらに高まり、国際都市・京都の都市格向上に寄与できることを期待しています。

インタビューー 館長 木下 博夫

1943年生まれ。国土事務次官、阪神高速道路(株)社長等を経て、2012年より国立京都国際会館館長・常任理事を務める。

数字で見る 国立京都国際会館

京都洛北の豊かな自然の中に広がる、日本を代表する世界最高水準の会議専用複合施設・国立京都国際会館。その多彩な魅力を「数字」でご紹介します。



最大収容人数

10,000名

充実施設と最新設備で
大型会議も円滑に開催

同時通訳設備を備えた9会場、70余の会議室、2つの多目的ホールなど充実の施設群が総計700本の光ファイバーネットワークによって結ばれ、ライブ中継やインターネット放映などで10,000名規模の大型会議も円滑に開催できます。



日本初

日本で1番最初の国際会議場

1 First

日本が国連に加盟した翌年の1957年、当時の岸信介首相が「京都に国際会議場を」と発言。国際会館の歴史はその瞬間から動き始めました。やがて美しい自然に囲まれた宝ヶ池周辺が建設地に選定され、1962年に着工。1966年、日本で最初の大型国際会議場として、また日本で唯一、国立の国際会議場として誕生しました。4階まで吹き抜けた高い天井と台形の建築美が生み出す荘厳な空間、そして国内唯一の国連方式によるレイアウト。1,840席をゆったりと包み込む格調高い舞台が心に残るコンベンションを演出します。

市内中心部から

京都駅からも約20分

15分

関西空港から京都駅まで約75分、伊丹空港からは約55分、首都圏からも2時間半圏内。京都駅からは地下鉄で約20分、市内中心部からは約15分。アクセスの良さと豊かな自然環境を兼ね備えた世界でもまれなコンベンションセンターです。



ガーデンパーティー

日本庭園で
心に残るコミュニケーションを

3,000名

宝が池に面した日本庭園では最大3,000名規模の園遊会にも対応。水上ステージや花火など、思い出に残るアトラクションも感動のひとときを演出します。

総敷地面積 **156,000m²**

自然美と融合した会議専用複合施設

京都洛北の豊かな自然を取り込んだ広大な敷地に、日本庭園や駐車場、ホテルと融合した会議専用の複合施設エリアを形成しています。2018年6月にはニューホールが完成予定です。

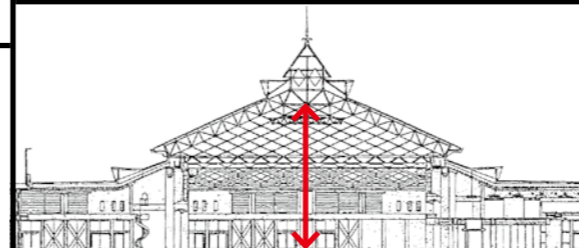


V字柱の傾き

68.2度

美しく印象的な建築

台形と逆台形の組み合わせが強い印象を与える建築。柱は垂直ではなく、約68.2度の傾斜になっています。これは床面と柱の傾きを「40:100」とした設計から生まれた傾きで、周囲の自然と調和した景観を生み出す傾斜なのです。



イベントホール天井高

20m

駐車場に直結した大規模な無柱空間

3,000㎡の無柱空間が広がるイベントホールは、レセプション会場として、キャパシティは京都の中で最大規模。約20mもの天井高があり、あらゆるイベントに対応可能です。



パブリックスペース

70%

ゆったりとした贅沢な空間

多くの会場・会議室を有する充実の施設ながら、ロビーやラウンジなどのパブリックスペースが館内の70%以上を占めています。ゆったりとした贅沢なつくりです。



これまでの会議・イベント開催数

17,000件

豊富な実績と経験で最高のホスピタリティをご提供

日本初の国際会議場として1966年に誕生して以来、これまでに17,000件を超える会議やイベントを開催してきました。さらに、参加者1,500名以上の大型国際会議も毎年40件以上をサポート。京都議定書が結ばれたCOP3(第3回気候変動枠組条約締約国会議)の舞台となるなど、

日本のコンベンションの歴史を支えてきた豊富な実績と経験を活かし、企画段階から運営までのあらゆるサービスをトータルにサポートしています。ケータリングにおいても、宗教や文化に配慮しつつ世界各国からの参加者を楽しませる食事のプロデュースが好評をいただいています。京都で磨かれた「和」のおもてなしをご提供します。



Event Report 開催報告

TPM Awards Ceremony 2016

2017年 3月23日 - 24日



TPM Awards Ceremony 2016(主催・公益社団法人日本プラントメンテナンス協会)が開催され、全員参加の生産保全(TPM)に優れた世界各国90事業所が表彰されました。表彰式は、生産システムの効率化により経営成果を上げている海外企業を表彰するため毎年行われており、最上位のワールドクラス賞はトルコのアーチェリック社に贈られました。

本年度の表彰式には、世界17カ国から約450人が出席。午後1時からの表彰式では、世界各地の受賞事業所代表らが次々と登壇し、笑顔で表彰盾を受け取りました。会場のイベントホールには、大型スクリーンやムービングライトが設置され、華やかな照明や映像で式典を盛り上げました。また、続いて行われたパーティーでは、京小町踊り子隊が踊りを披露し、参加者らは日本文化との触れ合いを楽しみました。翌24日には、IoT(Internet of Things)、からくり改善などをテーマにしたセミナーも開かれました。



※「TPM」および「からくり改善」は、公益社団法人日本プラントメンテナンス協会の登録商標です。

桜・さくらスペシャルデイズ2017

2017年 4月2日 - 3日



日本式回遊庭園を一般に無料開放する当館の自主企画イベント「桜・さくらスペシャルデイズ」を今年も開催しました。2日間とも暖かく春らしい陽気に恵まれ、多くの人出で賑わいました。

池とその水面に渡された浮き橋をめぐって散歩する、広々とした回遊式庭園。比叡山をはじめ周辺の山並みを借景にして、宝ヶ池の豊かな自然を取り入れています。庭園では京都市立芸術大学の学生によるアンサンブルコンサートが開かれ、優雅な調べがイベントに華を添えました。

館内には、昔遊びやペーパークラフトのコーナー、京都の伝統工芸実演・体験コーナーなどがあり、家族連れにも盛況。ランチには春の味覚を味わう松花堂弁当や洋食の特別メニューをご用意。桜はまだつぼみでしたが、今年も笑顔の花がたくさん咲いた大盛況の2日間となりました。



Event Calendar

2017年 4月 → 7月

催事名	日程	人数
自主企画「桜・さくらスペシャルデイズ2017」	4月 2日 - 3日	3,000
ライオンズクラブ国際協会335-C地区第63回年次大会	4月 15日	1,800
SAKE Spring 2017 ~銘酒と美食の春まつり~	4月 15日 - 16日	10,000
第10回 宝酒造杯囲碁クラス別チャンピオン戦 京都大会	4月 23日	1,300
第63回 春の宝松庵茶会	4月 23日	600
Pick UP 第32回 国際アルツハイマー病協会国際会議 32nd International Conference of Alzheimer's Disease International	4月 26日 - 29日	4,000
国際ロータリー第2650地区 2017-18年度 地区研修・協議会	4月 30日	1,300
第55回 IBMユーザー・シンポジウム 京都大会	5月 18日 - 19日	1,000
第60回 全国私立保育園研究大会 京都府大会	6月 7日 - 9日	2,500
平成29年度 公益社団法人京都府看護協会定時総会	6月 17日	550
第14回 国際通信学会アジア太平洋国際会議	6月 25日 - 27日	150
平成29年度 公認スポーツファーマシスト認定制度 京都基礎講習会	7月 2日	600
Pick UP 第26回 日本心血管インターベンション治療学会	7月 6日 - 8日	4,800
第23回 日本看護診断学会学術大会	7月 15日 - 16日	1,700
第5回 日本糖尿病療養指導学術集会	7月 29日 - 30日	1,000

Pick up ピックアップイベント

第32回 国際アルツハイマー病協会国際会議 4月26日 - 29日

世界各国から認知症の人や家族、専門家が集い、「ともに新しい時代へ」をテーマに支援の取り組みなどについて議論します。国際アルツハイマー病協会(ADI、本部・ロンドン)主催で、京都での開催は2004年以来2度目。過去最大規模の約100カ国4,000人以上の参加が見込まれています。認知症の当事者が発言し、運営に携わるのが最大の特徴で、医療・福祉だけでなく、ビジネスや交通、買い物などあらゆる場での認知症との共存を目指して開催されます。

第26回 日本心血管インターベンション治療学会 7月6日 - 8日

第26回日本心血管インターベンション治療学会(CVIT2017)が、7月6日から3日間の日程で開催されます。テーマは、「For the patient, for the future—よりよいインターベンション治療を求めて」。メディカル企画では特別講演、ラウンドテーブルディスカッションなどが行われます。内外の3中継施設からライブデモンストレーションがあるのが大きな特徴。また、コメディカル企画では合同シンポジウム、合同パネルディスカッションなどが予定されています。

Information

Vol.03

ニューホール 建設工事

来夏の完成へ槌音響く、本格工事スタート!

国立京都国際会館では、2018年6月の完成に向けて、2,500人収容の新しいホールの建設を進めています。

▶▶ 建物を支える杭 10m×60本

写真は、現在の工事の様子です。中央の天高くそそり立っている機械は高さ30m、重さ100tもある重機。この重機を使って、建物を支える杭を地中に打ち込んでいきます。杭は直径50cm、長さ10m。これを60本ほど打設します。

▶▶ 地下部分の基礎工事も始まる

建物本体の基礎を造るための掘削工事も始まり、地中を10mほど掘り下げました。今後はここに建物の基礎を構築。地下部分には機械室や雨水を再利用するための貯水槽などが設置されます。

今後も安全第一で工事を進めてまいります。引き続き本工事につきましてご理解を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

※今後も、このコーナーでは、ニューホール建設工事の様子をお知らせしていく予定です。



駐車場のご利用について

工事期間中は駐車場のご利用を制限させていただきます。(詳しくはホームページをご覧ください)ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解・ご協力を賜りますようお願いいたします。

京都で、
会いましょう。

京
Kyōの

おもて舞台うら舞台

大政奉還から150年 元離宮二条城の欄間



豪華絢爛な二条城の唐門（国宝）。二の丸御殿とともに桃山文化を代表する建築物。



世界遺産二条城。徳川家康が築城し、3代将軍家光がほぼ現在の形に整備しました。雅やかな公家文化が色濃い京都の中で、絢爛豪華な武家の建築はひときわの存在感。京の都に徳川の武威を示すには十分な迫力です。

さて、写真の極彩色の蝶や鶴たちは唐門を飾る欄間。二条城と言えば狩野派による障壁画群が有名ですが、実は欄間や釘隠しなどの「彫り物」も見応えがあります。唐門の欄間も一枚の板を表から裏まで彫り抜く透かし彫りでつくられていて、その細やかな造形美は見えていて飽きることがありません。中でも庄巻なのが、二の丸御殿・大広間の三の間と四の間を仕切る欄間。三の間側から見ると孔雀、松、牡丹が彫り抜いてあるのに、四の間側から眺めると松と牡丹と芍薬。透かし彫りなのに、向こう側にいる孔雀が全く見えないのがなんとも不思議で、ついで三の間側と四の間側を行ったり来たり…。

二条城は、江戸幕府15代将軍・徳川慶喜が約250年続いた政権を天皇に返上した「大政奉還」の舞台となった場所。今年は大政奉還から150年にあたり、二条城をはじめ各地で記念プロジェクトが開催されています。また、2018年のNHK大河ドラマは『西郷どん』。今年の京都是、幕末の歴史舞台。二条城が注目です。

アクセス ● 京都市中京区二条通堀川西入
市営地下鉄東西線「二条城前駅」下車
開城時間 ● 8時45分～17時（入城は16時まで）
休城日 ● 要問合せ
入城料金 ● 一般600円
電 話 ● 075(841)0096
（詳しくは二条城HPをご覧ください）



二の丸御殿・大広間。狩野派の豪壮な障壁画だけでなく、欄間の意匠も見応え十分。